



学校教育目標 「心身ともに健康な子どもの育成」～思いやりの心もち、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成～ なかよく、かしこく、いきいきと

＜めざす子ども像＞

- 思いやりがあり、なかよく助け合う子ども
- よく考え、自ら進んで学ぶ子ども
- 健康で明るく、粘り強く実行できる子ども

＜めざす学校像＞

- 思いやり、やさしさにあふれる学校
- どの子もめあてをもち、活躍できる学校
- 子どもの歓声が上がる、楽しい学校

＜めざす教職員像＞

- 常に危機管理意識をもち、子どもの力を伸ばすために努力を惜しまない、信頼される教職員
- 子どもに対する温かな愛情をもち、一人一人を大切にする教職員
 - 子どもを伸ばすために、一時間一時間の授業を大切にしている教職員
 - 子どもとともに汗を流し、時を守り、場を清め、礼を正す教職員
 - 自己反省の姿勢をもち、専門性、指導力の向上のため、常に研修に努める教職員
 - 常に教育公務員としての自覚をもち、高い危機管理意識をもった教職員
 - 組織の一員としての自覚をもち、組織の大切さを理解している教職員
 - よりよい結果を求めて協働し、情熱と忍耐をもってあきらめずにやり抜く教職員

- 運(1) 公教育の場として、充実した教育活動が展開され、児童・保護者・地域の信頼にこたえる学校
- 営(2) 職員一人一人がもてる力を発揮し、それぞれの役割を積極的に果たすとともに、調和のとれた教育活動が展開される学校
- 目(3) 児童一人一人のよさを見出し、可能性を引き出す教育活動が展開され、全ての児童が安心して学校生活を送ることができる学校
- 標(4) 地域の人材や特性を生かした教育活動が展開され、児童・保護者・地域に開かれた生涯学習の場としての基盤がある学校

持続可能な社会を築く市民として生きる力

本年度の重点

	＜重点1＞ 子どもも教師も学びを実感する授業づくりの充実	＜重点2＞ 学年及び近接学年でのカリキュラム・マネジメントの推進	＜重点3＞ 協働する人間関係、集団づくりの推進
な	対話する活動、協働する活動の工夫 ○コロナ禍の学校教育活動の下、学校でこそなすべき学習を追求し、制限のある中でも可能な対話する活動、他者と協働する活動を工夫する。 ○自分の考えを相手に適切に伝えたり、集団の中で発言したりすることを重視し、多様な考えに触れながら学び合うことに力を入れる。 ○人との対話を通して見方や考え方を広げたり、自分の考えに自信をもったりするように活動を仕組む。 ○教室の言語環境の最重要ポイントは担任の言葉、読みやすく正しい文字、適切な音量で明瞭な発音、適切な言葉づかいは当然のことと細心の注意を払うとともに、子どもの対話を促す教師の言葉を工夫する。 ○学級や学年の枠を超えて、職員同士が積極的に関わり合い、学び合う。(メンター・メンティ制を取り入れた中井小OJTプロジェクトの推進)	持続可能な社会をつくる力を育てるカリキュラム ○「持続可能な社会を築く」ことを柱として、SDGsの視点から、生活科や総合的な学習の時間を中心に、全教科等のカリキュラムをデザインする。(地域、環境、キャリア、国際理解、平和) ○中井の町→北九州市→国→世界と視野を広げながら、自分たちを取り巻く諸課題を解決する方法や、よりよい生き方を考える学習を展開する。 ○我が国の工業生産の発展を牽引し、厳しい公害を克服した歴史、優れた環境保全・開発技術や環境首都を目指す自治体としての施策をもつ本市の市民として、「環境」の視点からのシビックプライドを醸成する。 ○予測困難な不確実な未来を生き、社会をつくるのは、子どもだけではない、我々教職員も、社会の大きな変化への対応能力を身に付けることが求められる。教育改革のみならず世界の様々な事象、情報に通じ、学校教育を通して持続可能な社会構築の一端を担う自覚をもつ。	他者と関わり、知り合い、大切にしよう ○相手意識をもった挨拶や適切な言葉遣い、「新しい生活様式」での適切な関わり方、他者への配慮ができるように指導する ○友達のことや自分を取り巻く様々な人のことを知りたいという思いをもたせる活動を仕組む。 ○自分とは異なる考えや特性を認め、違うことの価値を実感できる学習活動を仕組む。 ○思いやりのある言動で誰かを助けたり、他者に配慮したりすることで得られる気持ちのよさや喜びを味わわせる。 ○他者と協力・協働して諸活動に取り組み、力を合わせることで得られる成功を実感する活動を工夫する。 ○いじめ防止のための取組など、子どもたちからの発案・実行を引き出しつつ、対人スキルや心を育てる活動を工夫する。 ○お互いを思いやり、気にかけてあい、職員の温かい人間関係を築く。
か	中井スタンダードの授業めあて・見通し、学び合い、まとめ・振り返り一人一人が考えをもち、表現し、考えをもとに協働する学習 ○一つ一つの教育活動のねらいを明確にして取り組む。何のために、何を指して、そのために何を行うのか、整理して取り組む。 ○毎時間、学習の「めあて」を明示し、「見通し」をもたせるとともに、めあてに向かって学んだ結果としての「まとめ」、学びを確かめ意味をとらえ直させ、価値を実感させ次時につなぐ「振り返り」を確実に行う。 ○子どもが自ら考えざるを得ない問題提示、課題設定を工夫する。 ○「見て考える、読んで考える、聴いて考える」を日常的に行う。すべての学習活動で自分の考えをもち、それをもとに学び合う活動(対話や話し合い、意見交換、討論、発表、発信等)を設定する。 ○学習の流れや要点を示すと同時に、学び合いを可視化する板書やICT機器(タブレット等)の活用を積極に行う。 ○新学習指導要領の着実な実施を図るために、日々の授業改善に主体的に取り組む。特に、ICT機器を活用した授業づくりに積極的に挑む。	教科や様々な学習活動、人、地域がつながるカリキュラム ○教科の横断的なつながり、学年の縦断的・系統的なつながりを生かして、限られた時間の中で効率的かつ重点的に学ぶ二学期制カリキュラムの編成。 ○子ども自らが動き出し、真剣に学んでいけるように、また、学んだ知識・技能を関連付けて考え、問題を解決できるように、教科横断的な学習を展開する。たとえば、総合的な学習の時間に学んだり体験したりしたことを生かして教科の学習を展開する、教科で学習して身に付けた知識や技能を生かして総合的な学習の時間を展開する、というように、各教科等における学びをつないで、深い学びを実現するカリキュラムをデザインする。 ○授業時間だけでなく、学校生活そのものや、家庭・社会生活における様々な場面、人との関わりなどを学びにし、授業時間と双方向で学ぶことができるようにカリキュラムをデザインする。 ○子どもが、多様な人や社会事象から学び考えをもちことができるように、教職員が積極的に学校外の人や社会事象とのつながりをつくって学ぶ。	聴き合い、話し合い、知恵を出し合ってよりよく生きる ○友達の話に関心をもって聞き、質問をしたり、感想を述べたり、意見を言ったりする活動を工夫し、豊富に仕組む。 ○友達と考えを出し合い検討しながら様々な活動を進めることが、よりよい結果に結び付くことを実感させる。 ○社会の中で、様々な仕事や地域活動などに取り組む人と出会わせ、思いや考えを知るとともに、その人から助言をもらったり、その人に向けて子どもたちの考えを発信させたりする。 ○学級・学年集団、クラブや委員会活動の中に居場所があり、集団をよりよくすることに個々の考えが活かされ、達成感や自己実現の喜びが味わえる集団経営を充実させる。 ○子どもたち自身の発案や話し合いによって生み出す活動、活躍の場づくりを推奨する。 ○職員一人一人の「強み」を生かし、学び合い育ち合う組織をボトムアップしていく。
い	子どもが主体的に学ぶ「学びに向かう力」を育てる授業 ○「新しい生活様式」の中で、子ども自身が課題意識をもって、よりよい生活や生き方、学び方を考えたり工夫したりできるように仕掛ける。 ○「知りたい、できるようになりたい、解決したい、分かってほしい」と主体的に学び、「やってみよう、こうしてみよう」と自らの発想や思考を生かして挑戦的に行動できるような学習課題や活動の設定を工夫する。 ○様々な学習活動の事前・事後の指導を丁寧に行い、学んだことの価値付けを行うことで自己確認させ、達成感や自信、次への意欲をもたせる。 ○子どもの小さな変容を見取り、褒めて伸ばす指導を徹底して行う。 ○学びの土台づくりとしての読書活動、MIM、コグトレ等の推進。 ○学ぶ方法や考える道筋、到達目標、支援の手だて、内容習熟度を個別最適化し、学び合いの融合を図る。	子どもの思いや願いの実現や課題解決を重視するカリキュラム ○学んだことが、他の学習や日常生活や実社会で生かされることに気づき、学ぶことのよさや価値を実感しながら学び続けられるように、カリキュラムのつながり(教科間、人や地域、生活など)を工夫する。 ○子どもの思いや意識のつながりを大切にし、子どもにとって考える必然性のある学習課題を設定し、単元のつながりを考えてカリキュラムをつくる。 ○各教科、単元の目標や内容を踏まえながら、子どもの思いと教師の狙いを組み合わせて、意欲や主体性を高めるカリキュラムをつくる。 ○子どもが主体的に課題解決に挑み、力を伸ばしていくことができているか、年間計画や単元全体の展開、小単元や一時間の授業の振り返りを行い、軌道修正や工夫改善を日常的に行う。	自信と誇りをもたせる ○様々なことに積極的に挑戦させ、支え、見守り、成功や失敗を多く体験させ、成長の糧にできるように指導する。(「失敗」のプラス思考的価値付け) ○自分が居る場のために働くこと、役に立つことの価値を教え、学校、学級、また、自分や誰かのために、知恵や力を発揮してしっかり働く心情と行動を育てる。 ○一人一人の子どもが、自分の心と身体を大切に、向上心をもって物事に取り組み、「自分にはできる」という自信をもち、他者と違っていても、自分の考えを自信をもって発言できるように個に応じた指導や支援を工夫する。 ○子どもの居場所を学校全体と捉え、全職員で組織的に子どもを見守る。(不登校・長期欠席0) ○中井小学校の一員であることを誇れる子ども・教職員(チームなかい)

